

令和4年度 学校評価総括表

阿波市立久勝小学校

- 1.学校教育目標 一人ひとりを大切にし 知・徳・体の調和のとれた たくましく人間性豊かな児童の育成
 2.めざす子ども像 進んで学び 仲間と深め 自信をもって行動する児童の育成
 3.総括表

A・・・十分 B・・・おおむね十分 C・・・やや不十分 D・・・不十分

評価項目	考察(成果と課題)	次年度への改善点等	関係者評価
学校教育目標	<p>「学校は、学校教育目標に向かって努力している」に対して、保護者からの肯定的な回答が87%であり、教育目標の具現化に向けた取組に一定の評価を得ていると考えられる。さらに、経営方針の教職員間での徹底や、施策の具体的な取組を充実させることで、より信頼される学校づくりを行っていく必要がある。</p> <p>また、「働き方改革」の保護者の認識は92%と3年間で8ポイント向上し、その認識の広がりを示している。働き方改革への理解のもと、教職員のワークライフバランス実現を目指した取組を一層推進させ、教育の質の向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多面的な視点からの改善 働き方改革の推進 	A
学級経営	<p>「学校へ来るのが楽しい」と考える児童は88%、「先生は、話を聞いてくれたり、注意したりしてくれる」と考える児童が92%と、これまでの取組が児童との信頼関係構築により結果をもたらしていると考えられる。一方、「楽しく学校に登校している」と肯定的に回答した保護者は97%であるが、「教師は、子どもたちの悩みや相談に親身に対応しながら、指導している」ことへの肯定的な意見が84%にとどまっている。学級の取組を学級通信や参観日を通してご理解いただいたり、こまめに連絡を取ったりすることで、さらに保護者への信頼を得られるように取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> HP等で情報発信 積極的な電話連絡や家庭訪問 	A
学力向上	<p>「学校は、学力向上を目指して指導している」に対して、保護者からの肯定的な回答は90%であり、昨年度より4ポイント上昇している。学校としては、タブレット端末の活用において、教育的な効果を上げられるよう努力を続けているところである。今後も、学力向上のツールとしてタブレット端末の活用を積極的に行っていく。</p> <p>学力向上実行プランに基づいた実践に関する児童の肯定的な回答は、「課題に進んで取り組む」88%、「ペア・グループでの学習ができています」87%といずれも昨年とほぼ同様の割合を示した。今後も、主体的・対話的で深い学びが身につく授業づくりの工夫などについて研修を深め、さらに分かりやすい授業づくりを行っていきたい。家庭で「学習習慣が身につくような働きかけをしている」については、肯定的な回答が77%であり、約2割の家庭では、サポートが難しい状況にある。このことは、児童の「忘れ物をせず、学習の準備ができる」の肯定的回答76%であることにもつながっていると考えられる。学力の向上を支えるためには家庭とのさらなる連携が欠かせないため、より積極的な啓発を進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> GIGAスクール構想におけるタブレットの有効活用 学力向上実行プランの改善と実践の充実 家庭学習のサポート 	A
体力向上	<p>「学校は、体力向上を目指して指導している」に対して、保護者から肯定的な回答が91%と3ポイント上昇した。この肯定的な意見が示しているように、体力向上への取組に対する一定の理解が得られていると考えられる。今年度は、水泳や陸上の大会が開催され、放課後の体育指導も行ったことがその要因と考える。さらに、基本である体育の授業で、めあてをしっかりと意識して学習できるようにしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における体力向上の推進 体育学習の充実 	A

評価項目	考察(成果と課題)	次年度への改善点等	関係者評価
生徒指導	<p>「学校は、道徳心や社会のきまりを守る意識を育てようとしている」に対して保護者の肯定的回答は90%で、昨年度を9ポイント上回っている。児童においても「きまりを守って生活できている」について、肯定的な回答が87%と昨年と同じ割合を示した。信頼関係をベースにした中で、規範意識を高められるよう、関係機関と連携を図りながら、ポジティブな行動支援の取組を進めた成果だと思われる。</p> <p>「進んで家の手伝いや自分でできる役割をしている」に対して、保護者の肯定的な回答は69%と昨年度とほぼ同じ割合であった。家族の一員としてその役割を果たす機会がもてるよう、学校での指導にあわせて、家庭への啓発をさらに行っていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・SWPBSの実践 ・家庭への啓発 	A
心の教育	<p>「学校は、人権を尊重する意識や態度を育てようとしている」に対する保護者からの肯定的な回答は89%と、昨年より3ポイント上回った。「教師は、子どもたちの悩みや相談に親身に対応している」に対しての肯定的な回答は84%と3ポイント下回っている。もっと、児童や保護者の想いに寄り添う姿勢を大切にした教育活動を行う必要があると考える。</p> <p>一方で児童は、「先生は、話を聞いてくれたり、まちがったことをしたらきちんと注意してくれたりする」に対して肯定的な回答が92%と、昨年度より6ポイント上回っている。教師と児童との信頼関係を構築していくことが困難な課題を解決していく近道だと信じて、今後も真摯に対応を続けていく。これからも、現在実践を進めているポジティブな行動支援(SWPBS)を教師の基本姿勢として深化させていく。</p> <p>また、児童は、「友達を大切にできている」「いじめや差別のない学校にしようとしている」に対して、肯定的な回答がそれぞれ93%、88%と高く、よりよい学級にしていこうする意欲の高さが表れている。しかし、「自分にはよいところがある」に対する肯定的な回答は76%にとどまっており、昨年度より1ポイント低下している。自己肯定感をもちにくい児童に寄り添う教育が一層求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者との信頼関係をベースとした学級づくり ・ポジティブな行動支援(SWPBS)の実践 ・児童の自己肯定感を高める取組 	B
安全教育	<p>児童は「地震や火事などの時に、どうやって逃げたらいいかわかっている」の問いに対して98%が肯定的な考えをもっている。児童にとって学校が安全なところであるという意識があると言える。保護者からも「安全教育に力を入れている」という問いに対して肯定的な意見が93%であった。今後も地道に学校安全に取り組み、保護者の理解が一層得られるよう取り組んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との積極的な連携 ・安全教育の取組を情報発信 	A

4. 学校運営協議会委員からのご意見

- ・保護者からの肯定的な回答が多く、信頼されている実情がうかがわれる。
- ・関係機関や様々な外部との関わりの中で教育しているのは、児童の健全育成には欠かせないことだと思う。
- ・集団生活のルールを守ることのできない子どもの指導を全職員の協力体制のもとで行ってほしい。
- ・学校へ来るたびに子どもの笑顔が見られてうれしい。この笑顔がこれからもずっと続いてほしい。
- ・情報リテラシーや情報モラルを身につけることは、重要な課題だと思う。
- ・先生が孤立することなく、チーム久勝で何事も対応して行ってほしい。
- ・様々な規制のある中で、できる範囲で行事が開催され、子どもがたくましく成長できていると思う。
- ・コロナ対応も緩和されてきた今、無言清掃は必要か。友達とおしゃべりしながら楽しく清掃してもよいのでは。
- ・YouTubeの視聴等の問題はあがるが、タブレットを持ち帰り、もっと学習に活用してほしい。
- ・地域に自主防災組織ができつつあるので、学校にも協力をお願いしたい。
- ・決められた日以外でもスクールカウンセラーを積極的に活用してほしい。
- ・学校からの情報発信に、SNSを利用してみてはどうか。